

第5回首都圏広域地方計画に関する有識者懇談会 議事要旨

日 時：令和5年3月20日（水）16:00～18:00

場 所：関東地方整備局荒川下流事務所アモアホール（WEB 併用）

出席者：家田座長、赤井委員、大原委員、沖委員、真田委員、清水委員、中川委員、平野委員、三神委員、森下委員

- 議事次第
1. 開会
 2. 委員紹介
 3. 議事
 - (1) 首都圏広域地方計画有識者懇談会中間報告(案)について
 - (2) その他
 4. 閉会

主な発言内容

(1) 視察

視察について意見交換を行った。各委員からの意見などの発言や事務局からの回答を行った。各委員からの発言や事務局からの回答は以下のとおり。

- ・ 観光についてももう少し何か取組ができないかと感じた。川はあまり観光資源に使ってきていない。観光は自治体単位になりがちで、資源として使いづらかったが、今日の視察からは、首都圏としての観光資源として使える可能性を感じた。観光としての利活用は、平時に注目をしてもらうこととも通じるところで、計画の中で観光は主流ではないが、接着剂的に使えるのではないか。
- ・ 災害の経済規模が最も大きいのが水害である。その対策が最も求められているのは、水害集中地域のアジアであり、その中でも日本は最も先進的である。災害マネジメントの技術面をパッケージ化して海外への輸出材としていくことは有用である。
- ・ CO2吸収コンクリートの技術など新しい分野が出ているが、現状施設は劣化に対して、耐用年数はどの程度を見込まれているか。ブルーカーボン概念における藻の活用や、ドローンによる物資配給も含めて、都市レジリエンスという切り口で、競争力がすでにある領域を整理し経済復興の早さを国際的に示すプラットフォームに載せられないか。
- ・ 1点目として、上下水道を含めて管理主体が異なるモノの連携をどういう枠組みで整理するか検討が必要である。
- ・ 2点目として、都市農業公園は、単発で憩いの場になっている。コストセンターにとどまっているのをプロフィットセンターにして、広域の計画にどう組み込み、誰が担うのかをみなで考える方向にできないか。
- ・ 3点目として、PLATEAUと不動産IDとBIMの統合は、河川の分野にも使えるという発見があった。
- ・ 荒川の一番の特徴はかつて舟運であったことだ。緊急時のリバーステーションがあるが、平時からの利用や、ロックゲートを活用した他の河川との連携が、川のネットワークとしてどう活用するか。昔から取り組まれていると思うが、課題はどんなところにあるか。
- ・ 1点目として、水防活動がはじまったというのはエポックメイキングだと感じた。水平展開する上では、そのきっかけを学ぶ必要がある。
- ・ 2点目として、いかに河川でお金を落としてもらうか。小田急線地下化に伴い、地上

部に広場を整備したところ、テレビドラマの撮影地として人気が出て、若者が集まっていると聞いた。人々に集まってもらうには、今までとは異なる発想で、ソフトパワーと連携するなど、新たな取り組みも必要であると感じた。

- ・ 連携は、無駄なモノ、遊びの部分があることがきっかけになる。例えば、羽田と川崎を結ぶ橋梁の桁裏には、当時は使用予定時期の見通しが立っていなかったが配管用の穴をあえておき、その後羽田空港への水素供給に使おうということになった。また、荒川は景観的に空の広がりがあることはメリットであるので活かさないか。
- ・ デジタル管内図の取組は、事業の進捗が見える化されているという点で、これこそやって欲しい取組だった。
- ・ 委員の川も多機能的に進めるべきだ、というのはそのとおり。
- ・ 河川の平常時については、緑、サイクリング、散歩を楽しむのに、大河川はやや大規模すぎると感じる。野川、目黒川などの中小河川の方は湾曲が小刻みにあり、まちの景色もすぐに変わり面白いと感じる。
- ・ 河川同士は繋がりがあり、ユーザーは特に意識していないが、国と都道府県と管理水準の違いがあまりに大きくないか。その混在自体が関東の特徴であるかもしれないが、そうした違いがあることを理解することも必要であるかもしれない。
- ・ 災害時と平時の二面性をどう活かすかは課題に感じている。例えば、農業公園は、高規格堤防とシティプロモーションの両方で優秀である。河川敷道路や緊急船着き場も同様と考えている。今後、河川のメンテナンスでリニューアルしていく際に、多機能化、ハイブリッド化を図っていきたい。

(2) 議事

議事について事務局より説明を行い、各委員からの意見などの発言や事務局からの回答を行った。各委員からの発言や事務局からの回答は以下のとおり。

- ・ 骨子が協議会で決まるのを待たずに、具体の議論を進めていくとも聞いている。
- ・ 全国計画について、情報共有をさせていただく。
 - 「時代の重大な岐路に立つ。」として切迫感を訴えているところがこれまでと違うところ。
 - リニアについて、SMRという言葉は、リアリティを感じないという指摘が複数あったため言葉を直した。
 - 地域生活圏については、過疎地のことを考えると、最低10万人程度は人を集めない。
 - 関係人口については、過疎地を救うために、農業系の方たちからは期待が強い。
- ・ 資料3の2. について、上から2つめは、変化を受け身で受け入れるのではなく、首都圏は先頭を切って、社会実験的なことをやって欲しい、という期待を込めてのものであった。
- ・ 資料6. の2つめは、首都圏は国際競争力と言う中にさまざまな要素があり、それらをどう構造化するか、という視点だった。ウェルビーイングは国際競争力の重要な構成要素として扱うべき。
- ・ 資料8. (1) は、決めた政策が大きな目標に照らして間違っていないかどうかをEBPMで明らかにできるような仕掛けを用意しておきたい、という趣旨である。
- ・ 地域別の目標が前よりも目立つようになり、良いと思う。東京圏、首都圏などの言葉が出てくるが、言葉の定義の違いが明確にわかるようにする必要がある。

- ・ 各々の定義は行っている。どこかに明示する等をしておく。
- ・ エssenシャルワーカーの箇所について、人手を要する仕事という意味かと思うが、用語の使い方が気になる。
- ・ 防災と減災の用語の使い分けを明確にすべき。
- ・ 首都圏は非常に多様な地域である。今日見たところは、ある程度の安全度は高いが、決して安全とは言えない。広域の中では、かなり複雑な災害リスクがある。歴史も踏まえて、災害に対するリスクをどう類型化し、どう強調するか。
- ・ 委員の、国際競争力については、書きぶりが弱いと感じている。アジャイルな進め方は、今後の作業とさせていただく。
- ・ 委員の、人間尊重については特に社会生活において重要である方たちを取り上げていたが、表現の工夫の余地はある。防災、減災は、再度、事務的に確認したい。
- ・ 委員の、災害における地域別の目標は考えたい。また、首都圏ならではのリスクについては、P 2. 6～17行目に書いてみたが、引き続きご指導いただきたい。
- ・ 食料に関する記述がやや目立つ印象である。食料の買い占めのようなフードショックのリスクについても考えておく必要がある。前回の会議において、リスクばかり言うなという意見に対しては内容にご反映頂いたが、財政リスクについては抜け落ちている。あらゆることを政府や自治体に依存しすぎると、却って国民をリスクに曝すのではないか。
- ・ 治水は、ハードだけでは機能せず、空間設計を通していかに円滑なコミュニティにしていくかが重要。文化に関しても同様のことが言える。災害リスクに対し、安全なところに住めば良い、という発信では社会全体の合意は難しい。リスク分散型の都市にしていくことを今から示すべき。
- ・ 平時にも意識できる防災づくりについて、防災の担い手となるヒトを集める際に重要な視点は、そこが安全であるということと、いざというときに地域の意識に上ることである。そのことが魅力的な空間づくりにも繋がる。
- ・ 流域治水については、例えば、徳島で藍染めが地場産業として根付いているのは、稲作であると台風の時期と重なってしまい上手く収穫できずに成り立たないから、リスク管理として、別の産業に転換したことから始まっている。
- ・ 概要版を見ると、リスクからどう守るのか、書かれるようになった。一方で、デジタル化が進んだ時に、都心部が何で食べいくのかということ、あまり面白みがない。政府機能・本社機能プラスビジネスサポートのための金融等の機能で成り立つというのが一般的な見方である。まずは、それを認める、というストーリーを描いてみてはどうか。一方で、多数あるものづくり拠点は更新していかなければならないし、経済安全保障の観点からプラスアルファということもある。10年後の目標に向けて、イノベーションをどう創出していくのかは、少し練習が必要。例えばつくば市のように、国家戦略特区の中で、公物管理やロボット倉庫、電子投票などの実験を繰り返しやってみる、と言う道筋を見せるのもひとつだ。
- ・ 委員の、財政リスクについては、計画策定の過程で今後必ず言われることと認識している。書きぶりは慎重に考えたい。コミュニティの観点からの空間論については、地域生活圏のガバナンスとして、例えば公共交通や電気・ガス事業も組み合わせて公共サービスを確保していく発想が考えられる。流域治水については、流域治水の具体的な取組について、先ごろ、関東地整内部に専門部署を立ち上げたところであり、検討

- 中である。
- ・ 委員の、平時に意識できる防災として、首都圏では長い通勤コース内など防災などが考えられる。流域治水の話は、都市計画との関係から少し前のめりな目標を掲げてみたい。
- ・ 委員の、東京一極集中については、若い人は一度くらい東京に来て良いのではないかというニュアンスも含めている。イノベーションの道筋については、対流がどうイノベーションに繋がるのかを書いている。
- ・ カーボンニュートラルと同時に国内の付加価値の高い産業の価値を守ることが重要である。また、DXについては首都圏で先進的なプラットフォームをまず作り地方へと広げていかなければならない。一方で、既存のストックをぎりぎりまで使い倒すことも重要となる。内陸部に目を向ければ、内陸の再エネを内陸部での熱需要につなげるという方向性もある。
- ・ 人間の尊重については、必要などころには人を貼り付けて良い。他方で、デジタルと人とのインターフェイスが大事であると感じている。デジタルに上手く対応できない方を取り残すことないよう、人が介在してデジタル化に持っていくことが求められる。
- ・ 現状でも人手が不足して困っている地域では、地域生活圏を形成しても人がよそからは来ないため、個々のまちの個性を際立たせるべきである。（例えば、鹿島臨海部では就職先として人気低迷している。）
- ・ 余談として、大原孫三郎という経営者の言葉で、10人中2~3人が承認したらスタートすべきというものがある。10人中1人（自分のみ）ではいけないし、10人中4人以上では遅すぎるとのことである。
- ・ 東京一極集中の是正は、是正して良い問題と、そうでないものとをどう捉えていくかを書き分ける必要がある。
- ・ 若い世代が減っている中で、東京から地方にもっと移住してもらうなどという単純な話では無い。人口統計、教育費用、住宅価格、通勤時間、住宅面積などと出生率の関係をデータで見た上で導き出されたものとなっているか検討が必要である。（データ上で根拠づけておくことが必要である。）気候変動による海面上昇リスクは都市インフラの計画に早急に気象データ分析等をもとに反映させる必要があるだろう。
- ・ 防災という概念は、本来のレジリエンス（災害を受けた後の都市の回復力）にアップグレードすべき。災害の予測精度を上げて最適配分するなど、技術的にも精緻化が進むため、ハードー辺倒のニュアンスでは誤訳の感がある。
- ・ 首都圏はどこから稼いで来るかと考えたときに、インバウンドは大きな要素である。例えば、河川を観光向けに整備した際に、地元利用者は無料として、海外観光客から料金を徴収するようにして、インバウンドの利益だけで運用できるものがあったとしても良いのではないか。
- ・ 概要版のポンチ絵が分かりにくいと感じた。どこが中心であり、何を言いたいのか。特に「3.」をシンプルにすべきではないか。「4.」の首都圏をリニューアル、はシンプルすぎると感じた。書き方を工夫して欲しい。概要版であるためかなり要約に苦慮されたことは承知であるが、ページ数が増えても良いので、分かりやすくまとめたいただきたい。
- ・ 河川が多機能化については、ごもっともと感じた。ただ単に昔のように戻せばよいということではないためネーミングは工夫する必要がある。このことは、歴史性と文化創出を伴うことなので、奥行きや深みをもう少し強化しても良い。さらに、新しい人々（地域外・インバウンド）との協力体制も書いてはどうか。4.か5.で示すのが良いかもしれない。また、伊藤委員から「文化」の強調が足りないとご指摘を受けて

- いた。例えば、首都圏広域は、新潟県や長野県を含んでおり、それら地域は、雪形文化である。記載していく文言をもう少し豊かにできるように事務局とともに検討していく。
- ・ 連携を超えた統合的マネジメントという考え方は大切である。インフラはいざというときに役に立ってくれること大事である。そうした役割をデジタル化していく必要がある。
 - ・ 委員の、産業については、ひとつはエネルギーとの関係、もう一つは若い人の集まることをどう繋げていくかに課題があると理解した。内陸の再編は、例えば茨城県が、陸揚げした水素を内陸へ輸送すること、山梨の水素のことも伺っている。これらは首都圏として大きなテーマである。人間の話は、エッセンシャルワーカーの定義がハッキリしないが、メンテナンスをする人たちもエッセンシャルワーカーそのものであると感じているので追加していきたい。エッセンシャルワーカーの人手不足対策は、人口減少のところに記載はしてある。
 - ・ 委員の、一極集中の是正については、弊害の是正が最大目的である。例えば、通勤混雑など。都心の住宅価格など、データを使つての説明は引き続き検討していく。レジリエンスは、経産省のナショナルレジリエンス研究会の意味で使っている。
 - ・ 委員の、インバウンドは、観光分野の記載を復活させたが、そこに加えてインバウンドも記述したい。概要版は、再度、ご相談しながら工夫したい。
 - ・ 委員の、昔は多様で多機能だったということを大きな文化として捉えていくことは、ご相談させていただきたい。
- ・ 本日の会で出された意見を全て反映していくことは難しいため、引き続き検討させていただく。お気づきのところは個別に事務局に伝えて欲しい。全般の修正は事務局と座長と主査で行っていければと思う。（異議なし）
- ・ 今後は座長、主査と調整してとりまとめていく。来年度の有識者懇談会は今後も引き続き、よろしく願いしたい。

以 上